



2025年8月15日 Vol.34(番外編)

[illegible]

今回は、Vol.33 でも一部登場したナミブ砂漠内の各名所とその感想を紹介します。

その1. セスリム溪谷 (Sesriem Canyon)



写真1：道中の看板

写真2：水が溜まった溪谷の様子①

写真3：水が溜まった溪谷の様子②



写真4：干上がった溪谷の様子①

写真5：干上がった溪谷の様子②

写真6：奥にある水場

ここは、写真1の通りソーサスフレイ観光の拠点であるセスリムからわずか4kmほどしか離れていないため、ナミブ砂漠ツアーでは高確率でルートに組み込まれるスポットです。セスリムとは現地語で“セス=6つの”、“リム=革ひも”という意味で、その昔、水を汲むために6本の革ひもを繋ぎ合わせて、バケツをこの渓谷の底まで下ろしていたことが由来となっています。写真2, 3はその当時を彷彿とさせるような水が溜まった時の様子ですが、砂漠という乾燥地帯にあるため雨が降った直後でしか見ることはできず、ほとんどは写真4, 5のように干上がっています。その代わり、このような状態だと渓谷を歩き回れるため写真6のような奥にある水場まで進むことができ、飲み水を求めたサルの群れを発見できます。道中は所々日陰になっており、水場付近はやや涼しいものの補給用水分は不可欠で、また多少のアップダウンがあるため軽いトレッキングができる服装だとベストかと思います。

その2. ビッグ・ダディ



写真7：下から見たビッグ・ダディ



写真8：途中



写真9：唯一の飲み物



写真10：頂上からの景色



写真11：頂上から見たデッドフレイ

ここは、高さ 300m 超の世界最高峰級の砂丘の一つで、初めて砂漠を訪れた時は下から見上げて終わったため、いつか登頂してみたいと思っていたものでした。写真7の矢印↓で示した砂丘がビッグ・ダディで、遠目でもその大きさが際立っていることが分かります。そのため、挑戦する場合は高所恐怖症の人と水分の確保に注意が必要です。その壮大さ故、登っている途中で見下ろすとかなりの高さを感じます（写真8。分かりづらいですがこの地点で 70m ほどあります）。砂に足が埋もれるため滑落することはありませんが、高所恐怖症の人は登るのにも下りるのにも足がすくんでしまう可能性が高く、個人的には登頂はオススメしません。ただ、それでも挑戦したいという方は十分な水分をもって行くことは忘れないでください。自身はここで大失態を犯し、水一式をロッジに忘れたため、泣く泣くジュース1パックで登るハメになってしまいました（写真9）。砂丘に登るという行為は、砂に足が埋まる、砂に流されて下に押し戻される、傾斜がきつい、太陽が昇ると砂漠の暑さになることから通常の登山より足腰への負担が大きく、体力の消耗が激しいです。ガイドの「自分は40分で登れるよ。」との言葉を鵜呑みにし、その程度かと高を括っていましたが、普段運動をしていないこともあって10歩ごとに休む必要があり、結果的に登頂まで3時間かかって

しまいました。ここまでとはいかずとも長時間にわたる砂丘登りが予想されることから、水分だけは忘れずにご持参ください。ただこれだけ時間がかかったお陰(?)で5:50の登頂開始直後は辺り一面が薄暗かったものの、頂上では見渡す限りの景色を拝むことができました(写真10)。後ろから異様にペースの早いイギリス人の団体に追いかけられましたが、何とかこの日一番に登頂でき、感無量でした。せっかく登ったため暫く居座っていた所、彼らと合流し、互いに写真撮影をしました。このように初対面の人とすぐに打ち解け合えるのも、登頂までの労力や辺り一帯で最も高いといった特殊な環境故だと思います。また、隣には次に紹介するデッドフレイもあるため(写真11)、斜面を下れば続けて回ることができます。

その3. デッドフレイ



写真 12：デッドフレイ入口 写真 13：デッドフレイの様子① 写真 14：デッドフレイの様子②

ここは、ナミブ砂漠で最も有名といっても過言ではないスポットでしょう。先ほど紹介したビッグ・ダディに登らなければ写真12のように看板のある正面から20分ほど歩いて行くことになりますが、登った場合は写真13矢印↓から下りてくる形になります。ちなみにここからビッグ・ダディへの登頂は不可能ではありませんが、正規のルートよりかなり傾斜がきついためオススメはしません。現に一人の観光客がチャレンジし、断念していました。

ここは、かつては川が流れる沼地だったものの、気候変動や砂丘の移動によって川がせき止められ、完全に干上がったことにより現在の姿になりました。そのため、名称も“デッド=死”、“フレイ=沼地”つまり“死んだ沼地”となっています。ただ、写真14のように完全に乾燥したアカシアの木が黒く枯れたまま残っている一方、白い地面に青い空、赤い砂丘に囲まれているというコントラストが印象的な立地であることから多くの写真家たちに好まれ、映画やCM、写真集のロケ地として選ばれています。

ここを訪れるまではネット上で写真を拝見していて、幻想的な場所だけれども相当加工してあるのではないかと半信半疑でした。しかし、いざ訪れてみると今まで目にしていた写真の通りで、それを伝えきれない自身の写真技術が悔やまれました(ー_ー)。「死」と「美」の共存を感じさせるような神秘的な場所で大変人気なため、基本的に観光客はいますが、朝5:30の開門と同時に向かえば、涼しい時間帯に暫く独占して好きな写真を撮ることが可能です。ただし、レンタカーの場合は4WDでないと最寄りの駐車場までたどり着けないことにご注意ください。ここは、ナミビアにお越しの際は是非とも訪れて欲しい場所の一つです。

その4. デューン 45



写真 15：正面から見たデューン 45

ここは Vol.33 にも記載の通り、砂丘の研究をしていた時から知っていた聖地のような場所です。ただ、45 の意味は調べたことがなく、何となく 45 番目の大きい砂丘なのかと思っていました。そこでガイドに尋ねたところ、「入口の門から 45km 地点にある砂丘だから」だとのこと。そのため、もっと門の近くにはナミビアで最も高いデューン 7 (350m 超) やデューン 23、デューン 40 等があるのだそうです。

高さは約 170m で、写真 15 を見る限りでは登るのが大変そうですが、ビッグ・ダディと比較すると登りやすく、また多くの観光客が登るため足場が固まっており、下に滑りづらい点で初心者向きだと思います。現にビッグ・ダディを登った後に立ち寄りしましたが、その残された体力でも 40 分ほどで登頂することができました。そのため、この山頂で日の出を拝みたい場合は、朝一にここに向かえば十分に可能かと思います。



写真 16：スケール比較



写真 17：中腹から見た景色

聖地を初めて登った時は疲れもありましたが、それ以上にここを訪れたどの観光客よりも感動していた自信があります。山頂では青い空と赤い砂丘群のコントラストが際立ち、抜群の眺望を楽しむことができました。是非ご自身の目で確かめてみてください！また下山後は、人とのスケール比較のために写真 16 のようなものを撮りましたが、自分で決めた構図が悪く、あまりその壮大さを伝えきれないことが口惜しいです(;-;)。スケールは同写真の登頂中の人の大きさでご想像ください。

ここは運が良ければ日中でも暫く独占することができ、好きな写真を撮れる一方、いくら登りやすいと言えど、中腹から 8 人乗りの車が小さく見えるほどの高さはあります(写真 17)。そのため、高所恐怖症の人は足がすくむ場面もあるかと思います。ただ、ビッグ・ダディと比べて下りやすくもあるため、自身が登れる位置まで行って引き返すことは十分に可能です。頂上に長居したい場合は、こちらでも水分をお忘れなきよう。

その5. 南回帰線 (Tropic of Capricorn)



写真 18：南回帰線の周辺 写真 19：標識(左)とステッカーボード(右) 写真 20：12月24日に頭上から撮影してもらった自分

砂漠から少し離れますが、スワコップムントという港町と砂漠との間には南回帰線が通っています(図1内の緑色の線)。道中、何の前触れもなく急に現れるため見過ごさないよう注意してください(写真18)。そこには標識やステッカーボード(写真19)があり、見ると色々な国からの訪問客が色々な物を貼っていました。南半球の夏至にあたる12月21日付近にここを通ると太陽がちょうど真上に来ます。



ちなみに写真20は南回帰線からやや離れた場所で、12月24日に頭上から撮影してもらったものです。右に写っている影は撮影者のものですが、自身の影はどれだけ体を動かしても全く映らなかったという不思議な体験ができました！夏至の日周辺で南回帰線付近にいと、同じような写真が撮影できると思います。なお、“Capricorn”とは“やぎ座”を意味し、南半球の夏至の日に北半球から太陽を見るとやぎ座の位置にあったためこのように名付けられたそうです。

図1：南回帰線の場合

今回、自身にとって聖地巡礼のようなことができ、そのスケールに圧倒されっぱなしの感無量な旅でした。ナミビアにお越しの際は、是非訪ねてみてください。

AFRICAN SAFARI

Vol.7

今回も砂漠にちなんだ生物を紹介します。

《サソリ》

写真は幼体のサソリですが、砂漠ではなく家で発見しました。ただ砂漠にはよくいる生物で、アフリカ大陸だけで200種以上が確認されているそうです。毒をもっていることで有名ですが、実はその多くは毒性が弱く、人に重大な危害を与えることはないそうです。一部の砂漠ツアーでは、サソリ観察を含むナイトツアーもオプションとしてあります。



次回：ようやく2025年のイベントに突入します。来ナした日本人とのコラボ活動
AFRICA ART PROJECT in NAMIBIAの様子を紹介します！